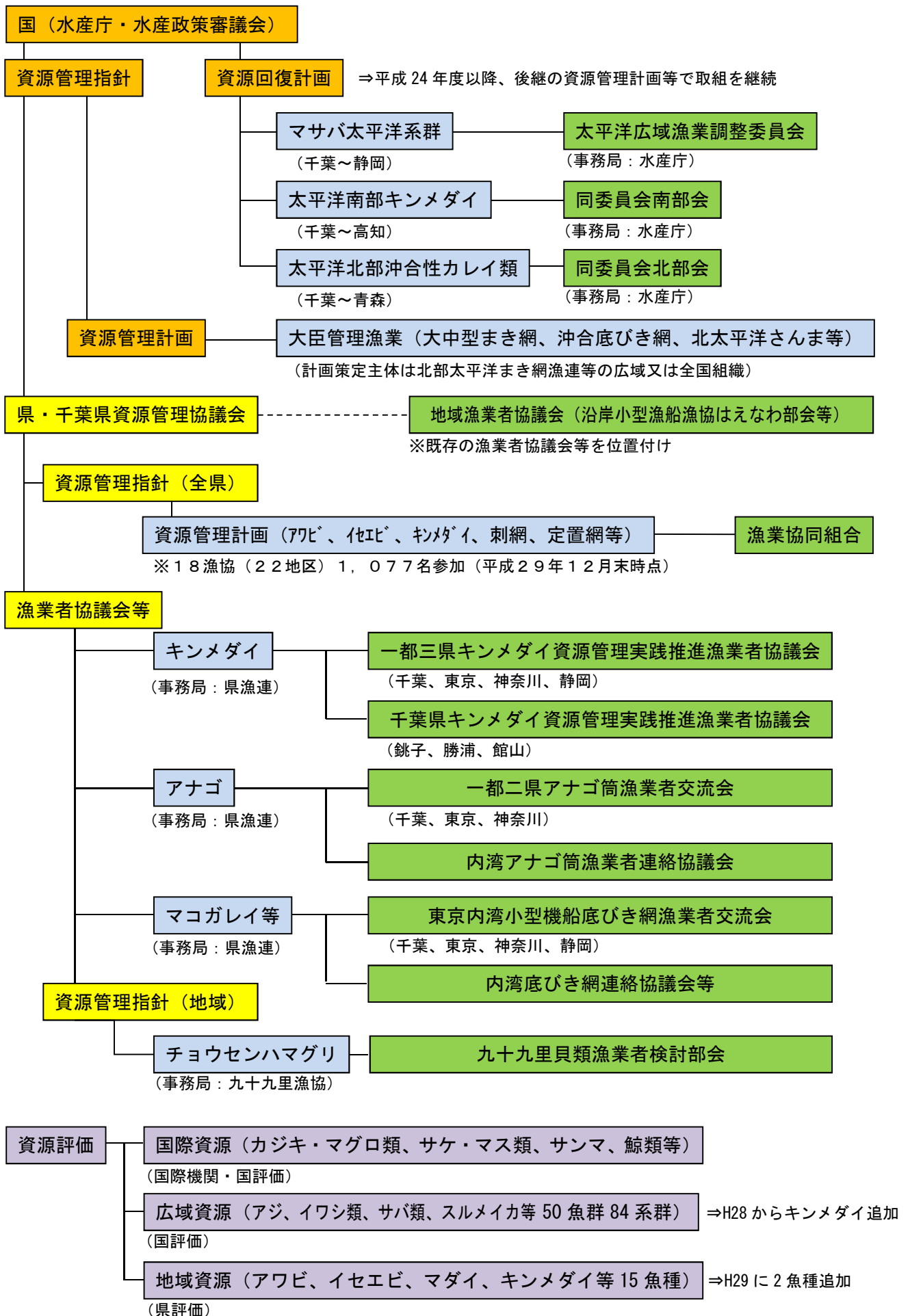


千葉県の資源管理型漁業推進体制の概要



平成29年度の資源評価結果

平成29年度沿岸水産資源の資源評価を行うにあたって資源評価検討会議（以下「検討会議」という。）を2回開催しました。検討会議においては、資源評価基準及び資源評価対象種について検討し、資源評価対象種として昨年度対象だったキンメダイ、コノシロ、スズキ、ヒラメ、マコガレイ、マアナゴ、マダイ、アサリ（非公表）、アワビ類（クロアワビ及びメガイアワビ）、サザエ、チョウセンハマグリ及びイセエビの13魚種に新たにダンベイキサゴ及びマダコの2魚種を加えた計15魚種の資源評価を実施いたしました。各魚種の資源評価結果の概要は以下のとおりです。

資源評価結果の概要（資源水準及び資源動向のカッコ内は平成28年度の結果）

対象魚種	資源水準	資源動向
キンメダイ	銚子沖：中位（低位） 勝浦沖：低位（低位） 東京湾口：高位（中位）	銚子沖：増加（横ばい） 勝浦沖：横ばい（横ばい） 東京湾口：増加（増加）
コノシロ	高位（中位）	横ばい（減少）
スズキ	中位（高位）	横ばい（増加）
ヒラメ	高位（高位）	増加（増加）
マコガレイ（東京湾）	中位（低位）	減少（増加）
マアナゴ	東京湾：低位（低位） 銚子・九十九里：高位（中位）	東京湾：増加（減少） 銚子・九十九里：減少（横ばい）
マダイ	高位（高位）	増加（増加）
クロアワビ	高位（高位）	横ばい（横ばい）
メガイアワビ	中位（低位）	増加（横ばい）
サザエ	中位（高位）	横ばい（減少）
ダンベイキサゴ	中位	増加
チョウセンハマグリ	高位（高位）	横ばい（増加）
イセエビ	中位（中位）	横ばい（横ばい）
マダコ	高位	横ばい

資源管理の高度化に向けて

～キンメダイ資源管理についての研究と提言～

1 研究に取り組んだ背景

キンメダイは北海道南部から南西諸島に至る海域の、水深 200～800m の海山や陸棚縁部に生息する。漁業者と千葉県が連携し、長年にわたり実施してきた標識放流結果から、成長に伴い一部は大きく回遊するが、大部分の個体は地先海域に留まることが明らかになっている。

本県沿岸では銚子沖、勝浦沖、東京湾口部に漁場が存在し、主に 10 トン未満の小型漁船約 330 隻が漁獲対象としている極めて重要な魚種である。各地区で漁業者による自主的な資源管理が行われているが、2008 年以降、漁獲量は減少してきた（図 1）。

そこで、研究センターでは銚子沖漁場をモデル地区として年齢別に資源量を推定し、合理的な資源の利用方策をとりまとめた。

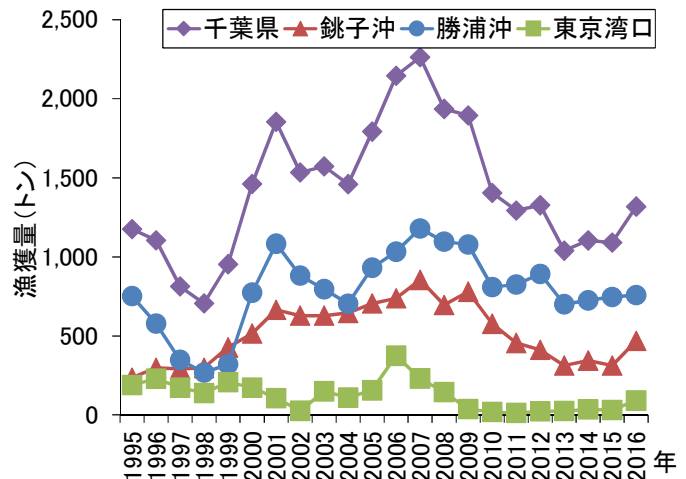


図 1 千葉県沿岸におけるキンメダイの漁獲量

2 研究のあらまし

- これまでの資源管理：小型魚の保護を目的とした漁獲サイズの制限，禁漁区・禁漁期の設定

調査の実施・結果の解析

→ 年齢別の資源量や漁獲圧力が適正か推定できるようになった。

- これからの資源管理：漁獲圧力や漁獲開始年齢を変化させた時に、資源量や漁獲量がどう変化するかを予測する。

新たな科学的知見に基づいた合理的な資源管理が可能になる。

3 成果の概要

① 資源量変化の特徴

2006 年から 2010 年まで 1 歳魚の資源尾数は減少し、2011 年に増加に転じた。資源量は若齢魚の資源尾数（加入水準）に応じて変動していた（図 2）。

② 資源の年齢構成及び漁獲量との関係

資源量が多かった 2006～2009 年では 5 歳魚以上も多く見られたが、2010 年以降は 1～3 歳魚の割合が増加していた（図 2）。

③ 資源量と漁獲量の将来予測

加入が低水準であるとの仮定のもと、現在の漁獲の強さで漁獲を継続すると資源量は減

少傾向となり、現在の資源量を維持させるには、漁獲量（漁獲圧力）を制限すると効果的である試算された（図3）。

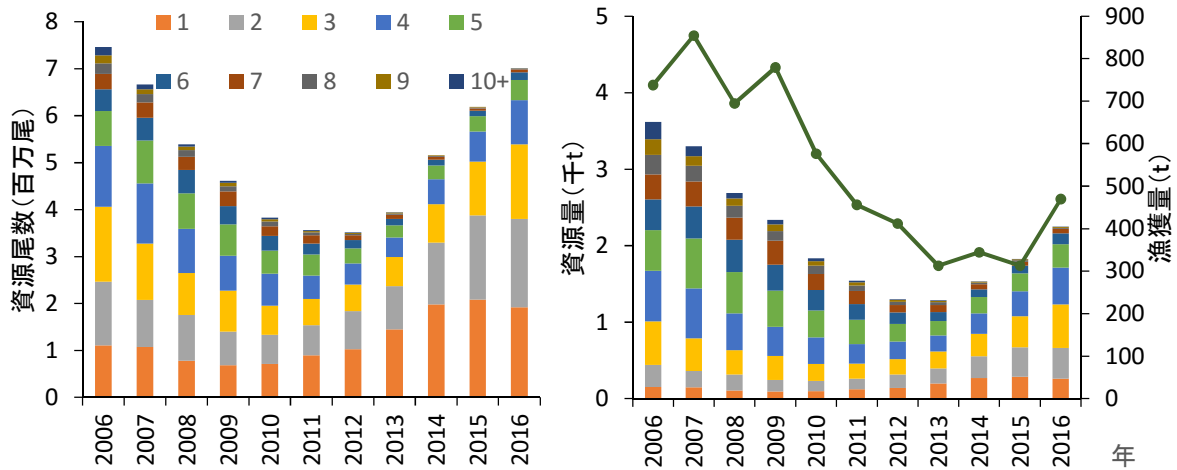


図2 銚子沖漁場における年齢別資源尾数（左）と年齢別資源重量及び漁獲量（右）

④資源診断

加入1尾当たりの漁獲量を増加させるには、漁獲圧力を下げるか、漁獲開始年齢を引き上げる必要があると判断された（図4）。

⑤合理的な資源管理方策

大部分の個体は地先海域に留まるという生態から、漁獲圧力を制限するより、漁獲開始年齢の引き上げが合理的な管理方策であると考えられた。

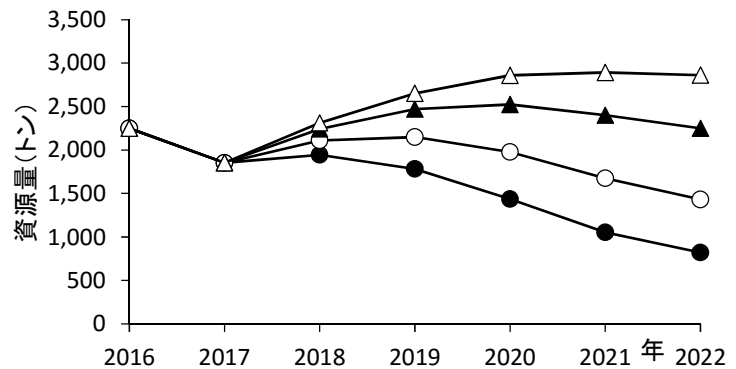


図3 銚子沖漁場における資源量の将来予測

●：現状の漁獲圧 ○：現状の6割
▲：現状の3割 △：現状の2割

(3) 期待される効果

漁業者が自主的に行っている小型魚再放流の有効性が確認された。また、科学的な根拠に基づく管理方策の提案が可能となり、持続的な資源利用に基づいた漁家経営の安定に寄与することが期待される。

(4) 今後の研究の進め方

キンメダイ資源が若齢魚の加入状況に影響を受けていることから、より小型魚の加入時期、場所、水準を把握する研究を、平成29年度から開始した。

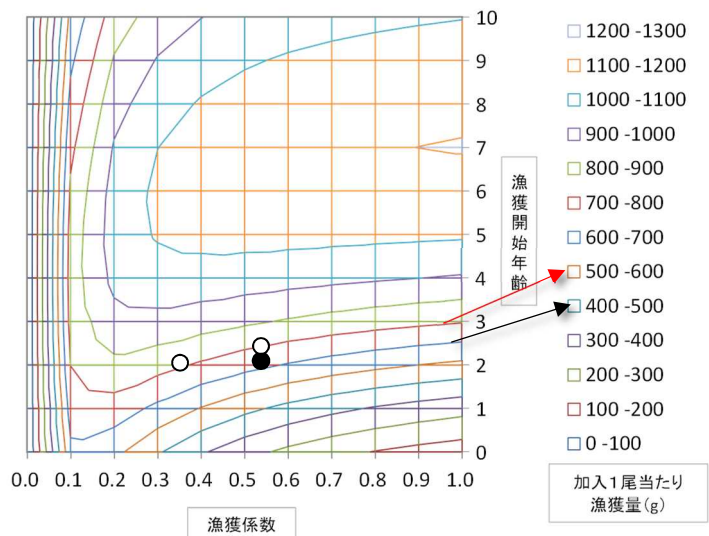


図4 銚子沖漁場における等漁獲量線図

●：現状の漁獲圧
○：加入1尾あたり漁獲量を1段階上げる管理方策